

2026 年の立秋は 8 月 7 日です。

立秋は秋の始まり。夏の暑さが極まり、秋に向け季節が移り変わり始める日。暦の上では立秋が夏の暑さのピークであるとされ、立秋の翌日からの暑さは「残暑」と呼ばれます。立秋の頃には、日本において様々な季節行事が執り行われています。

その一つが「七夕」です。七夕は一般的には 7 月 7 日に行われますが、もともとは旧暦の 7 月 15 日ごろに行われていたため、お盆と関係が深く、現在でもお盆と同様に月遅れの 8 月 7 日に七夕を行う地域があります。

特に名が知られているのは「仙台七夕まつり」で、8 月 6 日から 8 日までの 3 日間、仙台市中心部および周辺の地域商店街で開催されます。

8 月 5 日は前夜祭で、約 16,000 発の花火を仙台の夜空に咲かせ、仙台の街全体がお祭りムードに盛り上がります。



また、この時期はお盆の準備も始まり、先祖の霊を迎えるための様々な儀式や風習が各地で行われています。7 月をお盆とする地域もありますが、全国的には 8 月のお盆が一般的で 8 月 13 日～16 日と立秋の期間に当たり、お墓参りやお盆祭りなど、行事は全国各地でさまざま催されます。盆棚をしつらえて供物を供え、盆提灯を飾ったり、迎え火や送り火などを行うところが多く、京都の「五山の送り火」や長崎の「精霊（しょうろう）流し」も送り火のひとつです。

五山の送り火は京都市内を囲む 5 つの山に、火で文字や模様を浮かび上がらせる行事です。西から順に、鳥居形・左大文字・船形・妙法・大文字が並びます。

五山の送り火が終わるとお盆の行事も終わり、先祖の霊もあの世に帰っていきます。



鳥居形



左大文字



船形



妙法



大文字

『 秋立つや 素湯香しき(こうばしき) 施薬院(せやくいん) 』 与謝蕪村

意味：立秋の日が来たなあ。素湯が香ばしい施薬院であることよ。

「素湯」とは「白湯」と同じ意味で、沸かしただけのお湯です。施薬院で用意される温かい白湯の湯気や香りに、朝の静けさと心身が引き締まるような尊さを重ね合わせた温もりを感じさせる有名な俳句です。

施薬院は八世紀のはじめに、聖武天皇の後、光明皇后が創設したと言われる官費で、貧しい人や病人に薬を施し、治療をした施設です。